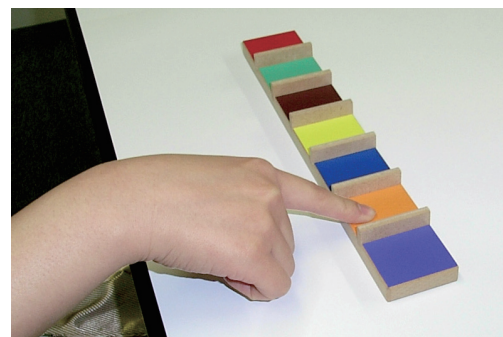


# ペーシングボードの 使いかた 【指導される方へ】



## 基本的な使用方法

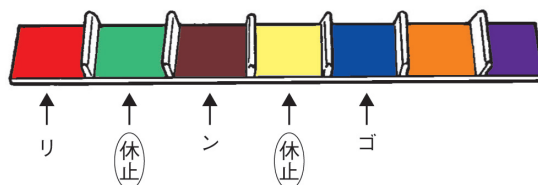
- ▶ ことばを話すさいに、モーラや文節などの単位ごとにひとつのスポット（仕切られたひとつの色）を指で順に触ってポイントしながら発話します。そうして発話速度を強制的に低下させ、発話明瞭度を高めることができます。

## 重症度に応じたポイントの仕方

- ▶ ポイントの仕方については、重症度に応じて変化させます。
- ▶ 発話明瞭度を5段階で評価した場合に、4～5の重度例ではモーラ単位でポイントします。
- ▶ 明瞭度が2～3.5の中軽度例では文節単位でポイントします。

## 応用的な使用方法

- ▶ ペーシングボードを使用しても、スポットをポイントする動作と発話速度とが一致しない場合があります。こうした場合、発話速度を低下させる強制力をさらに高めるために、「休止スポット」を用います。
- ▶ 休止スポットとは、ひとつのスポットをポイントしながらひとつのモーラを発すると、次のスポットをポイントするさいには休止を置き、その次のスポットをポイントしながら次のモーラを発する方法です。
- ▶ たとえば、「リンゴ」と発話する場合、「リ」と「ン」の間と、「ン」と「ゴ」の間はポイントしながらも休止を置きます。つまり、この区間は沈黙させます。こうして休止スポットを設けることでペーシングボードの利用が可能となって安定したら、通常の活用方法へと言語訓練を進めます。



## 携帯型ペーシングボード

- ▶ 日常生活のなかでもペーシングボードを使用するときには、携帯型ペーシングボードへと切り替えます。
- ▶ 車椅子を使用している事例では、アームレストに携帯型ペーシングボードを固定して（マグネットつき）、常に携行すると良いでしょう。あるいは穴にひもを通して首からつり下げすることもできます。

こうして言語訓練時だけでなく、病棟における看護・介護スタッフや家族との日常生活内の会話において、常に**携帯型ペーシングボード**を使用することをクライアントに促し続けます。日常生活場面においてペーシングボードを用いて発話速度を調節し続けることによってこそ、般化へとつながります。詳しくは、「ディサースリアの基礎と臨床 第3巻 臨床実用編」（西尾正輝著 インテルナ出版）をご参照ください。

 **インテルナ出版**

〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 駒込 TS ビル

Tel: 03-3944-2591 Fax: 03-5319-2440 E-mail: hanbai@intern.co.jp

<http://www.intern.co.jp/>

